TCFD･TNFD提言に対する取組み

▶ 自然資本･生物多様性への対応（TNFD提言に対する取組み）

豊かな自然環境に恵まれた長野県に基盤を置く当行は、環境に配慮し、自然と共存しながら地域社会とともに発展することを目的に、いち早く、環境問題に取り組んできました。

昨今、世界的な危機が急速に高まっている自然資本や生物多様性の損失に対しても、「八十二グループ環境方針」のもと、「八十二グループ 生物多様性保全基本姿勢」や「八十二グループ サステナブル投融資方針」を定め、対応を進めています。

八十二グループ
生物多様性保全
基本姿勢

ガバナンス

気候変動への対応と同様、サステナビリティ委員会、サステナビリティ会議での議論を経て、取締役会へ定期的に報告され監督を受ける体制としています。

➡ サステナビリティ経営にかかる各会議体の詳細については73ページをご覧ください

戦略

昨今、世界的な危機感が急速に高まっている自然資本や生物多様性の損失に対して適切な対応を進めていくためには、自然資本や生物多様性に関するリスクと機会を特定したうえで各種施策を実行していくことが必要と認識しています。このような認識のもと、2024年度は当行融資ポートフォリオについて、TNFD開示フレームワークで示されたLEAPアプローチによる分析を実施しました。

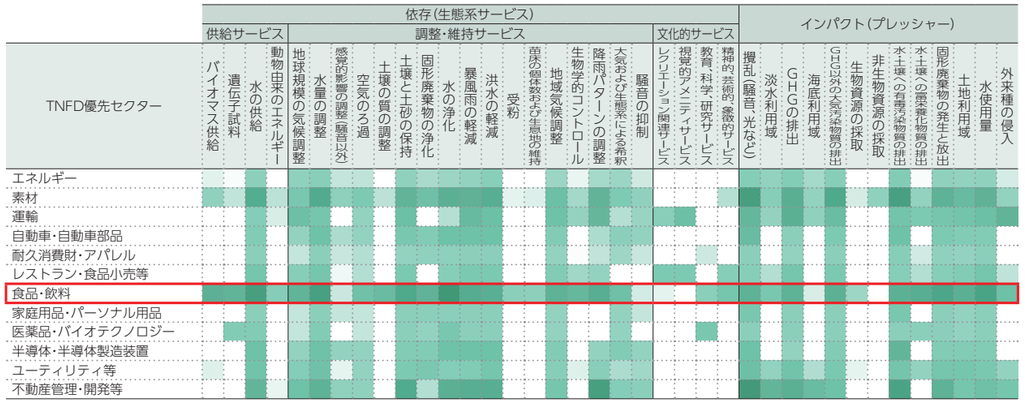
LEAPアプローチによるリスクと機会の特定

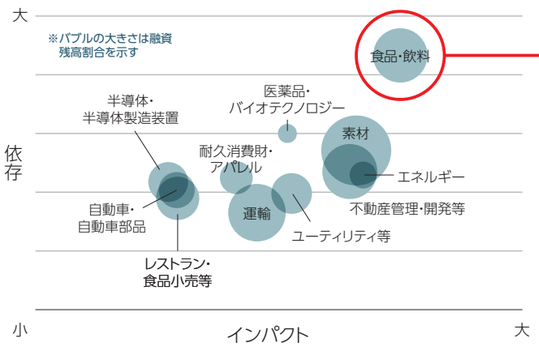
融資ポートフォリオ分析（Locate）

金融機関による自然への依存とインパクトは、投融資を通じて間接的に発生するものが大きいため、当行の融資ポートフォリオを対象にENCORE※に基づき分析を行いました。

※セクターや地理情報に基づいて、自然への依存とインパクトの大きさを把握するツール

〈各セクターの自然資本に対する依存とインパクト〉





分析の結果、食品・飲料セクターの依存とインパクトが最も大きく、当該セクターは特に「水」への依存とインパクトが大きいことも分かりました。当該セクターは融資残高も大きく、当行融資ポートフォリオに与える影響が大きいと判断されることから、2024年度は食品・飲料セクターについて分析の深堀り（バリューチェーン分析等）を行いました。

食品・飲料セクターにおけるバリューチェーン分析（Evaluate）

食品・飲料セクターのバリューチェーンを整理し、それぞれのサブセクターについて依存とインパクトを分析しました。自然資本への依存とインパクトが大きく、融資残高の大きい4つのサブセクターを特定しました。

また、4つのサブセクターに属する融資先の中から融資残高や拠点情報等を勘案し代表企業を選定し、当該企業の拠点と食品・飲料セクターにおいて重要な「水」の観点で、「Aqueduct」(※1)と「重ねるハザードマップ」(※2)を用いてリスクが高い地域との接点を分析しました。一般的には、海岸付近で発生するとされている富栄養化リスクが、内陸県である長野県でも農業活動や生活排水の影響で、湖や河川において高まっていることが検証されました。

※1:世界資源研究所（WRI）が提供する世界中の水リスクを評価・分析するツール
※2:国土交通省が提供する災害情報や防災情報の閲覧ツール

〈食品・飲料セクターのバリューチェーン〉

赤枠 は依存とインパクト等が大きいサブセクター

川上	川中	川下
農産物・サービス	包装食品・肉	生活必需品小売
	清涼飲料・ノンアルコール飲料	レストラン
	蒸留酒・ワイン	食品小売
	醸造	大規模小売
	貨物陸上輸送	

〈食品・飲料セクターの代表企業の拠点と「水」リスクが高い地域との接点〉

拠点	Aqueduct												重ねるハザードマップ
	水の量に関するリスク										水の質に関するリスク		
	水ストレス	水枯渇	年変動性	季節変動性	地下水面の低下	河川の洪水リスク	沿岸部の洪水リスク	干ばつリスク	物理的水リスクに関する定量的評価（農業セクター）	物理的水リスクに関する定量的評価（食品飲料セクター）	接続された未処理廃水	沿岸部の富栄養化ポテンシャル	洪水浸水想定最大規模
A	Medium - High	Low - Medium	Low - Medium	Low - Medium	Insignificant Trend	Low - Medium	Medium - High	Medium	–	High	Low - Medium	Extremely High	–
B	Low - Medium	Low	Low - Medium	Low	Insignificant Trend	Low - Medium	Low	Low - Medium	–	Medium - High	Low - Medium	Extremely High	0.5m～3.0m
C	Medium - High	Low - Medium	Low - Medium	Low - Medium	Insignificant Trend	Low - Medium	Medium - High	Medium	–	High	Low - Medium	Extremely High	0.5m未満
D	Low - Medium	Low	Low - Medium	Low	Insignificant Trend	Low - Medium	Low	Low - Medium	Medium - High	–	Low - Medium	Extremely High	5.0m～10.0m
E	Low - Medium	Low	Low - Medium	Low	Insignificant Trend	Low - Medium	Low	Low - Medium	Medium - High	–	Low - Medium	Extremely High	3.0m～5.0m

食品・飲料セクターにおける自然関連リスクと機会の特定（Assess）

これまでの分析結果を踏まえ、食品・飲料セクターにおけるリスクと機会を特定しました。

種類		事業に与えるインパクト
移行リスク	政策リスク	取水制限やGHG排出量、廃棄物管理等の規制厳格化、義務化等による対応コストの増加
		規制要件がある市場での操業許可の喪失
	市場リスク	消費者が、より環境負荷の低い製品や原料の使用を選好するようになることによる市場シェアの喪失
	技術リスク	自然に優しい技術革新の失敗と市場シェアの喪失 （技術革新の例：水の使用/再利用の削減、化学物質の使用、持続可能な包装、再生可能エネルギー）
	レピュテーションリスク	事業による地下水汚染、富栄養化、プラスチック汚染、森林減少、GHG排出などの基準を満たしていないことによる評判の低下、風評被害
物理的リスク	急性リスク	洪水等自然災害による設備の故障や事業停止リスクの増加
		農産物の不安定性による生産・調達コストの増加
	慢性リスク	農地の生産性の低下による農地および農産物サプライヤーの移転に伴うコスト増加
		取水水質の悪化
機会	市場	移行リスクへの対応によるESG評価の向上
		自然に配慮した技術を持つ企業と連携し、新しい市場を開拓
	評判資本	環境負荷の少ない企業としてのブランドの確立によるロイヤルカスタマーの獲得
	生態系の保護、復元、利用	安定した事業環境の維持と水供給生態系サービスの改善の鍵となる、生物多様性の高い地域の保全と回復のための取組への投資
		持続可能な水利用を支援するための、流域保護と水の補充活動への取組み

課題と今後の対応

今回の分析で特定したリスクと機会は食品・飲料セクターに留まっており、当行全体の状況を評価しているものではないと考えています。また、企業拠点と「水」リスクが高い地域との接点を把握するためTNFDで推奨されている全世界を対象としたツールを使用しましたが、当行が営業基盤とする地域の特徴の把握には課題が残りました。

今後は、分析セクター拡大による当行自身のリスクと機会の特定および分析の高度化によるお客さまとの対話・支援を通じて、お客さま、地域社会とともに自然資本・生物多様性の保全を実現していきます。